

## 令和3年度 真備地区復興計画推進委員会 議事概要

### 1. 会議名

令和3年度 真備地区復興計画推進委員会

### 2. 開催日時

令和3年11月29日(月)14時00分～16時00分

### 3. 開催場所

真備支所1階 101会議室

### 4. 出席者

#### (1) 委員(18名)

神崎均委員、中尾研一委員、黒瀬正典委員、高槻素文委員、加藤良子委員、中山悍慈委員、土屋瞳委員、野田俊明委員、徳田智恵子委員、加藤規郎委員、浅野静子委員、小田祐三委員、松王資子委員、白神勇委員、中山正明委員(欠席)、妹尾洋子委員、三宅隆司委員(欠席)、三村聡委員(委員長)、加藤孝明委員、橋本成仁委員(欠席)、中西公仁委員(欠席)、塩津孝明委員

#### (2) その他

オブザーバー(3名)、事務局(13名)

### 5. 傍聴者

3名

### 6. 報道機関

4社

### 7. 議事次第

#### (1) 開会

#### (2) 市長挨拶

#### (3) 委員紹介

#### (4) 議題

- ・真備地区の復旧・復興に向けた取組状況について
- ・真備地区における地域の活動について
- ・真備地区復興懇談会および住民アンケート調査(速報)の結果について
- ・その他

#### (5) 閉会

### 8. 配布資料

次第、委員名簿、配席表

資料1 真備地区の復旧・復興に向けた取組状況について

資料2 真備地区における地域の活動について

資料3 真備地区復興懇談会および住民アンケート調査(速報)の結果について

参考資料 倉敷市真備地区復興計画推進委員会条例

9. 議事概要 (◎委員長、○委員、■市長・事務局)

議題(1) 真備地区の復旧・復興に向けた取組状況について

議題(2) 真備地区における地域の活動について

議題(3) 真備地区復興懇談会および住民アンケート調査(速報)の結果について

- 本日は委員の皆様にも、真備地区の復興に向けて、これまでの進み具合や令和4年度と5年度に向けた御意見をしっかりと伺っていききたい
- 現在、ハード整備の河川工事は、国の小田川の付け替えは約5割、県河川は約7~8割まで進捗し、国と市で進めている小田川堤防拡幅も令和3年度内の完成に向けて進んでいるなど、皆様が真備で生活して頂くための、川の安全確保が日々進んできている。市の公共施設についても、6月にマービーふれあいセンター、11月にまきびの里保育園が再開し、全ての復旧が完了した
- 一方で、全国でも災害が激甚化・頻発化しており、日ごろから逃げる体制をつくっていかねばならない。そのために、今年真備地区で竣工した3カ所の災害公営住宅の屋上や廊下、市内の小学校なども活用して、浸水時緊急避難場所の確保を進めている
- これからは、復興を支える町内会や住民の皆様様の活動が、復興の重要な側面になってくる
- 市の復興事業としては、復興防災公園(仮称)の整備が最後の大きなものとなる。先日、東京オリンピックの会場を作った隈研吾氏のJVに設計業者が決まった。これから、住民の皆様様に平常時や災害時における利用について、いろいろとご意見を伺いながら、具体的な設計を進めていきたい

➤ 質問・意見

- ◎ 復興は、かなりいい流れで進んできている
- ◎ 計画づくりからずっと携わって頂いている委員の方から、事務局の説明内容に関してのご質問、並びに地域での取り組みについても紹介いただけたらと思いますので、忌憚のないご意見・ご発言をお願いしたい
- ◎ まず、まちづくり推進協議会会長の委員からお願いします

【まちづくり推進協議会からの主なご意見】

- 復興がこんなに進んできたのかという思い。まちが活気づいて、以前より、より良くなるように進めていきたいと思っている
- 仮設団地で要支援者の避難訓練(車中泊を想定)を行った。民間団体、地域の自主防災組織、まちづくり推進協議会等が参加した
- 元の場所に戻る予定の方はほとんどが戻って来たが、1割くらいは戻らないという方もいる。農業の方はほとんどが復旧している。活動の拠点である分館・コミュニティ広場は2019年の3月末に一早く復旧したため、従来のコミュニティ活動を開始した
- 現在は、コロナ禍になり大勢で集まる行事は出来ないため、30~40人程度で集まって外

で出来る行事を行っている(さつまいもの植え付け、芋ほり、ウォーキング等)。少人数で参加できる、そういった活動を地道に進めていきたい

- 一方で、災害を経験してから、地域住民のコミュニティをより一層強くして、いざという時に地域で助け合う活動が必要だということで、市役所に協力してもらい「防災セミナー」を開催している
- 各町内会で地区防災計画を作ろうということで、自分たちの地区にどういう要配慮者の方がいるのか。みんなでどう声をかけて支え合っていくのかを話し合い、計画にとりまとめていくための話し合いをしているところ。既に3地区でまとまり、自主防災組織を設置してくれた。これからも地道な活動を続けたい
- コロナ禍で行事の開催が難しい中、地区の祭事を行った。また、災害時の利用を兼ねた地区の史跡や名所を表示した看板を作成した。これには、避難場所等がどこにあるかを表示しており、防災と観光(ウォーキングマップ)を兼ねた案内看板になっている
- 倉敷市の総合防災訓練にあわせて、地区で独自に防災訓練を行った。自宅から避難所まで、災害が起こったことを想定した訓練を行った
- 年々、地区の委員が高齢化していく中でどのように対応するかを課題にしているが、子どもたちに直接まちづくりに参加してもらう取組として、「子ども自主防災組織」を立ち上げたいと考えている。子どもだけで考えてもらって、大人が発想できないアイデアが出るのではないかと思う。子どもだけの自主防災組織を立ち上げて、これを逆に大人が学ぶという形があっても良いのではないかと思う
- 7月6日には、真備町の竹を使って、竹の中でろうそくを灯す竹あかりのイベントを行った。コロナが収まるように、また、皆様の慰霊の碑を心から祈りながら灯りをつけさせてもらった
- 小田川の河川敷の草を刈り、マレットゴルフを行っている。また、河川敷の草丈を調べて、どうしたら草が生えなくなるのかを試行錯誤しながら今頑張っている
- 河川工事の状況を見て、本当によくやってくれていると感じている
- 地震を想定した防災訓練を実施した。雨が降る中、多くの方が集まってくれた。まだまだ家に帰れていない人もいるが、地区で活動することで、少しでも皆さんの心の支えになればと思いつつ頑張っている
- 小学校の体育館を使用して地区の防災訓練を実施した。今後は水害だけではなく、地震も想定されるため、現在、市が行っている避難場所の拡張工事について、早期の完成を望んでいる
- 今年も避難所を開設したが、小学校のグラウンドが真っ暗で避難し難かった。スムーズに避難できるように夜間の照明設備を整備してほしい。また、避難所までの道路が入り組んでおり、道が分かり難いので周辺の道路整備を行ってほしい
- 地区の防災の取組として、災害の展示会を開催して大勢の方に来ていただいた。将来に伝承していけるように、展示する施設を整備してほしい
- コロナ禍でもできる防災訓練として、黄色いタスキ大作戦を実施した(黄色いタスキを活用

した安否確認訓練)

- 町内会組織のないところでは、日ごろの情報伝達も十分にできないことがある。大雨時は広報車やサイレンも聞こえない中、情報が伝わるシステムを考えていきたい
  - 地域が結束することが課題解決になる。防災力の向上も、地域力を上げることや結束していくことが大事。真備の7地区で頑張っていることは、地域でのつながりを進めていくことにつながる。住民一人ひとり、一つ一つ、楽しい事もそうでないことも大切にしたい
- ◎ 次に、団体等の委員からお願いします

【団体などからの主なご意見】

- 仮設住宅に残る220人は高齢者が多いと思う。早く必要な対策をとって、自分の家に戻れるようにしてあげてほしい
- 箭田地区の老人クラブ(非会員も含めて)では、以前から100歳体操をしているが、災害後は活動する場所がなかった。コロナ禍で一時中止していたが、現在は場所を確保して再開しており、1回に40~45人は参加する。これが1つのコミュニティの場になっているため、ぜひ各地区においても100歳体操を実施してほしいと思う
- 身体障がいの方が小学校に避難した時にトイレが使用できなかったという話を伺った。今後、災害公営住宅の屋上が避難場所になるが、トイレの使用が可能なのか
  - 集会室のトイレは使用可能
- 社会福祉協議会の会費の徴収を控えていたが、ほとんどの地域で支払いをしてくれるようになった。12月の歳末助け合い運動も展開する予定になっており、復興が進んでいると感じている
- いままでは災害時に活用できなかったが、市が災害時要援護者台帳を見直して、自分で避難できない方を掲載する避難行動要支援者名簿を作成するという説明を聞いた。日頃から要支援者の方々と交流することが大切になってくるため、今後も協議会の研修等で取り組んでいきたい
- ハード面は復旧・復興が進んでいるが、通学路が工事によってう回路となり、車の交通量が増えて危ないという声を聞く。そういった内容をどこに相談したら良いか分からない保護者もいるためケアをお願いしたい
- 復旧・復興に向けて、有井橋を通行止めになっているが、う回路が整備されていないので、混雑して危ない。池野サイクルのところの交差点は狭いうえに、通学路でもあるので、何とかしてほしい
  - 現地確認し適切に対応する
- 小学校の児童の中には、心の乱れにより不登校になっている子がいると耳にする。子どもの心は今でも不安定な状況であり、直接被災したあと、コロナ禍もあり、精神不安定で入院する児童もいるため、心のケアには配慮してほしい
- 真備では、各地区の小学校・中学校・幼稚園で協力して、子ども達に未来へのメッセージ

を書いてもらおうとしている。冬休み前には支所に掲示するが、真備の特産である竹をイメージしたものなので、ぜひ見てほしい

- 一部の組織では、皆で呼びかけてイベントするまで至っていない
- 当時は、安全だと思い込んでいたところで被災して、大切な方を失った。今考えると色々な方法があったと思うが、この経験を今後役に立てていきたいと思う。たくさんの方々に支援を頂き本当に感謝している
- 工事の影響で自分の土地を手放し、他の土地に移転せざるを得ない方がいるが、やはり今の土地を離れたくないという声がある
- いきいきと活動している様子を紹介して頂き、元気をもらった
- 仮設住宅の供与期間の延長について、もし延長出来ない世帯があるならば、支援の方法を考えてほしい

◎ 次に、学識経験者の委員からお願いします

#### 【学識経験者(委員長含む)からのご意見】

- 資料1、2のように、「行政中心の物理的な復旧・復興」に概ね目途が付き、「地域・住民と行政が一緒につくる社会的な復旧・復興」の段階になってきている。これからは、地域・住民による様々な発意の取り組みを、行政が発掘し、熱意を感じ取りながら丁寧な支援に繋げていくことが大切である
- 地域にとって災害からの復興は大変な労苦だが、今までの状態に戻るだけでなく、発展するチャンスでもある。既にそれぞれの地域で育まれている「地域が発展するジャンプの種」を上手に活かしてほしい
- 資料3の住民アンケート結果はまだ速報だが、「住み続けたいと思っている世帯が7割」というのは、まだ多くないと感じる。また、「災害時の記憶が薄れていると感じる世帯が7割」というのは、薄れるのはしかたないが、時間とともに消えるようだと心配でもある。今後、検討を進めて地域がジャンプする方向へ繋げてほしい
- これからの復興では、被災者全体をつかむのではなく、よりマイナーな視点(被災者各々)をつかむことが必要になってくる
- 地域が発展していくためには、地域活動に多様性があることも重要で、地域の様々な組織や市民の自主的な活動が、なるべく緩やかに連携すると効果的である
- コロナ禍における分散避難の取組では、行政側から適宜逃げなさいという推進手法だけでは、逃げ遅れて取り残される人もいるので、きちんと地域社会で見守られた分散避難にすることが重要である
- 県全体の住民意識をみると、少子高齢化による人口減少社会では、災害を受けていなくても地域によっては既に「住み続けたい意識が低い」ところもある。一方で、真備地区では、人がきちんと住むためにふさわしい歴史・文化が、これまでに積み重ねられ、いい方向に発揚している。少々、少子高齢化で人口減少しても、地域が安全・安心な社会になることで、

復興につなげていってほしい

◎ 次に、事務局から発言があればお願いします


- 住民アンケート調査の速報結果を踏まえて、災害からの復興の現状について「どちらともいえない」「無回答」と回答している方の分析をして、復興したと感じていただけるようにしていきたい。また、災害への備えについても、子どもと大人と一緒に話し合う、子どものころから学校の防災授業で学ぶ、災害・復興の記録を保存する等、住民の皆さんが着目して頂いている点を踏まえて、市としてもしっかり支援していきたい
- 真備地区復興計画では、方針5「支え合いと協働によるまちづくり」が、まさに復興全体の根幹をなしている。真備地区は、災害前から地域のつながりの強い地区なので、コロナの影響もあるが、少しでも元に戻るよう連携していってほしい。全国の方も、真備地区の復興に着目している
- 将来的には、真備地区の皆さんには、市全体の災害に強い地域づくりに向けて、講師の役割を担い、他地区へ災害の経験と記憶を伝えて頂ければと考えている

➤ 閉会

- ◎ 復興を目指してきたものが、もう一步のところまで進んできている。本日の皆様方からのご意見を踏まえて、事務局は、真備地区復興計画に基づく事業の着実な推進に努めていきたい
- 本日の委員の皆様方からのご意見を踏まえて、今後は、市の方で真備地区復興計画を改定し、復興への取組を着実に推進していきたい

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名します。

令和4年 / 月 14 日

委員長 三村 聡 

署名委員 黒瀬 正典 